

へ 議会だより つかい

第93号
2020年5月



定例会で議論を交わす議員たち

特集 町長選挙間近!! 2

町長に問いたただす政策課題とその論点

土砂災害から住民の生命や財産を守る万全の準備に向けて.....	3
東部地区に整備する高齢者施設に老人ホームを併設.....	4
見えない「ふるさと交流館の方向性」スピード感を持って議論を.....	5
令和2年度各会計予算審査特別委員会.....	6
一般質問(田村、中村、横田、今西、木嶋、外山、宮越、瀧川、松壽の9議員).....	8
第1回定例会まとめ、研修報告ほか.....	17

シリーズ 町民に聞きました 記者から見た別海町議会18



北海道別海町議会

町長選挙間近!!

町長に問いたただす政策課題とその論点

昨年4月の町議会議員選挙後から、これまでの約1年にわたる政策議論を振り返り、町と議会との政策の争点・論点を紹介します。本年5月の選挙後に就任する次期町長とも政策議論を継続します。



①人口減少対策

【議会の考え】積極的な人口減少対策を盛り込み、近い将来の目標人口を目指す総合戦略が必要。
 【町長の考え】第7次総合計画の事業を抽出した、遠い将来の目標人口を掲げる総合戦略とする。

②子ども・子育て支援

【議会の考え】町の子育て政策の強みを残し、制度改正により多子世帯が負担増となった矛盾を解消するため、子ども園などの給食費負担の無償化を。
 【町長の考え】これまで国に先行してきた政策であったが、一度立ち止まり、家庭で乳幼児を子育てしている保護者との公平性を考えて実費徴収する。

③別海高校の間口確保策

【議会の考え】四半期ごとにバスの定期券を負担し、半年ごとに助成される高校生の通学バス助成制度を改め、全額助成するのであれば、一時負担のない制度に改善すべき。
 【教育長の考え】住民税非課税世帯および同等の経済状況の世帯への支援として、助成金を概算払いし、一部の保護者に限られるが、一時負担のない制度に改善する。

④経済政策

【議会の考え】担い手・後継者対策、観光振興など、定住・交流・関係人口が増加されるよう経済政策の推進体制を見直すべき。

⑤人材育成

【議会の考え】中堅職員先進事例等視察参加者を対象とした人事希望制度を実施すべき。
 【町長の考え】研修は大切だと考えているが、人事異動は適正や配属年数などを考慮し、全職場の状況を見極める中で行うため、実現は難しい。

以上の争点に加え、ふるさと交流館、酪農研修牧場、病院経営などの政策の論点、また、水産業や商工業の振興、新型コロナウイルス対策などの政策課題が多数あります。
 町長選挙後も、次期町長および教育長らに対して、政策議論を行い、町民の意見の反映を目指す政策議会として努力します。

総務文教常任委員会の活動報告

担当所管 総務部・教育委員会など 委員長 松壽 孝雄 副委員長 外山 浩司 委員 戸田 憲悦・中村 忠士・田村 秀男



担当職員から尾岱沼地区の急傾斜地崩壊危険区域の説明を受ける

土砂災害から住民の生命や財産を守る万全の準備に向けて

土砂災害危険箇所の調査と尾岱沼の急傾斜地崩壊危険区域の現地調査を行いました。

近年気象環境の変化による影響で大雨や低気圧などの発生が多発しており、高潮や急傾斜地の崩壊などによる被害の発生が危惧されています。

このことから、危険箇所（別海3、尾岱沼2、床丹4、中春別5）の今後の方針・対応を調査しました。

「いじめ」「不登校」の未然防止をいかに

「いじめ」「不登校」は、どの学校、どの子どもにも起こり得ることであり、当町でも存在している現状です。

解決への対応には、「日常の観察」「家庭との連携」「アンケート」「子どもの心理状況などの把握」「子どもたちの取組」「学校への啓発」に加えて幅広く積極的に「いじめを認知」することが、重大事案を防ぐことにつながります。

当町には、未然防止対策と

してスクール・カウンセラー1名、スクール・ソーシャル・ワーカー1名、教育支援センター「ふれあいるーむ」に指導員を1名配置して「いじめ・不登校の未然防止」「早期発見」「早期対応および学校生活への復帰」を支援しています。

高校通学バス助成金の現物給付の調査

今まで継続調査を行ってきましたが、今回概算払いをする旨の改正が示されました。

対象者は、住民税非課税世帯および同等の環境にある世帯です。住民税非課税世帯は、10名程度が対象になります。

委員会の求めている制度の改善とは、大きくかけ離れているので、委員会の総意で町長・教育長に改めて一般質問を通して見解を問うことになりました。（16頁参照）

野付小学校大規模改修を現地視察

改修内容は、「校舎の玄関ホーチ（ゴムチップタイルに改修）」「配膳室シャッター」「図書室サッシの改修」「屋内体育館の屋根・外壁・屋上防水トップコート（表層）改修」「男女トイレブースを撤去新設」「水銀灯からLED照明に交換」などです。

リニューアルした体育館で運動する子どもたちの笑顔がとても印象的でした。

「第2期別海町まちひとしごと創生総合戦略」の策定状況調査

現在策定を進めている総合戦略のパブリックコメントには、2個人、1団体から合計20件の意見がありました。議会からは、29件の意見・提案をしています。

町では、これらの意見・提案を参考に策定を進めます。

福祉医療常任委員会の活動報告

担当所管 福祉部・別海病院など 委員長 木嶋 悦寛 副委員長 小椋 哲也 委員 佐藤 初雄・松原 政勝・横田 保江

東部地区に整備する 高齢者施設に老人ホームを併設

施設経営の安定化を図るため、小規模多機能施設・ふれあいいきいきサロンに加え、地域密着型特別養護老人ホーム（19床）を併設。

2月14日に常任委員会を開催し、以下の事項を調査しました。

- ・MRI導入に伴う高額な建築コストについて
- ・特定保健指導の病院における取組について
- ・新型コロナウイルスへの対応について



MRI設備が増築される予定の箇所

・第2期子ども・子育て支援事業計画について

- ・特定健康診査の啓発について
 - ・東部地域における高齢者関連施設の整備・充実について
- このうち4件について報告いたします。

MRI検査棟建設費

MRI検査棟の建設工事の中でも特殊なものとして、電磁シールド工事が挙げられます。

約5千万円弱がこのシールド工事として見積られています。報告では、道内の類似案件でも同程度の金額、あるいはそれ以上となっていることから設計の妥当性が報告されています。

検査棟の建築費は全額借金となるため、引き続き金額の精査を要望しました。

第2期子ども・子育て支援事業計画

委員からは、計画の立案段階から委員会に詳細な資料を示し、調査を行えるよう要望がなされました。

また、これまで取り組めなかった病児・病後児保育についての検討に入ることを確認しました。

特定健診の啓発について

現在の受診率は36・8%であり、ここ数年は横ばいです。定期的に病院に通っている人も治療と予防では検査できる範囲が異なるため、できるだけ特定健診を受けてもらうための取組が必要であると確認されました。

病院での検査は治療する病気に対する経過観察を行うた

めの検査であり、それだけでは、それ以外の重大な病気を見逃してしまう場合があるからです。

委員会としても、特定健診の啓発に力を入れていきます。

東部地区へ的高齢者関連施設整備について

尾代沼地域に高齢者施設の必要性があることから、民間との協議の中で、経営の安定化を図るためにも宿泊型施設の設定が検討されています。

公募により事業者が選定されますが、小規模多機能施設・ふれあいいきいきサロンに加えて、地域密着型特別養護老人ホーム（19床）を併設し運営する条件で事業者を募集することとなりました。

委員からは、現状の地域性を考え、高齢者に限らず利用できる施設形態を考えるべきとの意見もあり、委員会では調査を継続することとしました。

産業建設常任委員会の活動報告

担当所管 産業振興部・建設水道部など 委員長 今西 和雄 副委員長 大内 省吾 委員 瀧川 榮子・小林 敏之・宮越 正人

見えない「ふるさと交流館の方向性」スピード感を持って議論を

12月定例会で委員会総意の一般質問を行いました。その答弁を受け、踏み込んだ調査を行いました。

ふるさと交流館

町は、設置理念や福祉向上・憩いの場としての必要性を前提に、膨らむ費用の課題も考慮しながら、本年9月までには結論を出す考えです。

それに向け、「ご意見箱」「ホームページ」「直接意見を聴く場」「経済団体への聞き取り」など、幅広く町民の意見を聴取することです。

また、運営経費、利用状況などの資料も示していくとの説明がありました。

議会が主催した地域めぐり懇談会での意見も参考に、スピード感をもって対応にあたるよう申し入れを行い、調査の継続を伝えました。

研修牧場

今年度4組が修了し新規就農者としてスタートし、新たに2組と3名の研修生が入所します。

各方面に働きかけている、担い手対策が実りつつあると



新たな研修生を迎えた研修牧場の入所式

の報告がありました。

また、一層の研修充実に向けて、牧場が抱える課題、今後の方向性など、農協担当者との具体的に協議を重ねている旨の説明もあり、当委員会も、事業内容を注視し、政策議論につなげていきます。

除雪体制

町有車12台・民間車（28業者）82台の体制で稼働。

今年度の防雪対策では、固定式防雪柵（13・7棧）・簡易式防雪柵（5・4棧）を設置し、万全を期して冬期間に対応しているとの説明がありました。

エゾシカ駆除状況

雪が少なく山に餌があるためか、例年よりも捕獲頭数が少ないとのこと。

また、捕獲されたシカは、(株)知床エゾシカファームによって食肉加工され、有効活用さ

れています。

エゾシカによる食害被害も年々増加しており、今後においても捕獲事業を継続するとの説明がありました。



囲いわなに入ったシカ

委員会活動2年目に向けて

1年目の事務調査・現地調査も、おおむね調査計画に沿って終了しました。

2年目に向けては、継続調査する案件も多く、事業内容をしっかりと検証し、政策議論をしていきます。

また、初めて試みた委員会総意の一般質問を、政策への提言に繋げるために、事務調査での議論を深めていきます。

骨格予算としつつも別海病院への

MRIの整備など大型予算を計上

第1回定例会に提出された令和2年度各会計予算案について、3月11日から12日までの2日間、議員全員による予算審査特別委員会（木嶋悦寛委員長）が行われ、一般会計、特別会計、企業会計の各予算合計8件が承認されました。2日間にわたり多数の質疑が出され、慎重に審議しました。質疑の一部を報告します。

研修経費

406万円

田村委員 中堅職員先進地事例等視察研修の派遣者数は、

また、人材育成の効果は。

回答 2名分を計上した。研修後のレポートなどから今後の目標や心構えを確認できる。

小椋委員 研修成果の共有や業務への反映と評価方法は。報告会の開催など積極的共有は。

回答 職員が業務で使用するグループウェアにレポートを掲載し、職員に報告している。職員としての幅やスキルアップにつながる。報告会は今後検討する。

今西委員 業務に追われ職員が研修に参加しにくいのでは。

回答 多忙により視察を希望しない状況とは考えていない。

別海高等学校教育支援事業 寄宿施設等助成事業

1368万円

横田委員 積算の内訳は。

回答 1室当たり助成金限度額6万円×12月×19室の内訳である。

別海高等学校教育支援事業 外部指導者派遣事業

112万円

宮越委員 指導者数および指導内容は。派遣希望などについて高校と協議されているか。生徒から意見聴取しているか。

回答 硬式野球部の指導者として1名分予算計上している。外部指導者の派遣は、事前に高校と協議している。直接、高校生からの意見聴取はしていない。

ふるさと応援制度推進事業

4974万円

田村委員 返礼品の開発状況は。昨年の決算審査において、先進地を視察していないという回答であったが、経費を盛り込んだか。

回答 現在、14事業者の延べ114品目が返礼品である。視察経費は計上していない。

佐藤委員 別海のと山を幸を売り込むべき。財源のピンチをチャンスに変えるべきだ。

回答 数量を確保できず伸び悩んでいる。

小椋委員 ふるさと納税サイトの契約先を拡充する説明があったが、一方で、1000万円予算を減らす要因は。

回答 より条件のよい業者と契約するためである。

根室北部廃棄物処理広域連合 関係経費

2億4442万円

瀧川委員 広域連合議会では、整備から14年経過するごみ処理施設の更新計画が示されていないが、現状を把握し、広域連合に意見を出しているか。

回答 実態については、広域連合から報告を受けて把握している。

大規模改修に対しては、長寿命化計画策定のための機能診断を予定していると会議で説明を受けている。

診断の結果によっては財政部局と協議しながら意見を出したいと考えている。

友好都市関係経費

99万円

大内委員 補助事業の詳細を。

回答 別海町友好都市提携交流協会が予定している枚方市へのスポーツ団体派遣事業経費への補助金を計上している。

かつては名護市や四万十市への派遣支援もしている。

令和2年度各会計予算審査特別委員会

国営土地改良施設維持管理事業

6454万円

中村委員 国営土地改良施設維持管理事業積立金の目的および使途は。

回答 固定価格買取制度の契約更新ができない場合を想定した施設の撤去費用、設備の更新費用、突発的な修繕費用に備えて積み立てている。設備の交換、災害などによる故障対応などの経費に充てる予定。

理事者活動経費

754万円

西原委員 議員の公務に係る出張については、年間予定の旅費の積み上げにより予算要求を行っているが、町長など理事者の活動経費の積算根拠は。

回答 当然積み上げの積算となるが、町長については、各団体の役員を多く担っており、緊急的な会議や要請活動に備え、ある程度見込みも加えて積算している。

老人保健施設改修事業

415万円

横田委員 常任委員会でも述べたが、夏は施設内が暑いとの声があった。エアコンの設置工事について詳細を。

回答 1階食堂および機能訓練室の天井にエアコンを2台設置する関連工事である。

総括質疑

中村委員 老人保健施設の稼働率および経営改善の方向性は。

回答 令和元年度の稼働率の見込みは、入所および短期入所ともに63%、短時間リハビリは64%である。ケアマネージャーなど関係者間の連携を密にし、利用促進を促すとともに、コスト削減がさらにできないか見直し、他の施設の情報収集をしたい。

沿岸漁業振興対策事業

1504万円

宮越委員 両漁協と事業内容を十分協議しているか。新魚種の栽培について、両漁協との協議や庁内での検討状況は。

回答 新年度予算要求時期に合わせて、毎年度両漁協へ事業計画の提出を求め、十分協議し、次年度予算への反映に努めている。新たな魚種の栽培については、第7次総合計画の主要事業に位置つけた。検討する計画だが、現段階で正式な協議に至っていない。

中小企業担い手育成事業

86万円

瀧川委員 大学視察事業について高校生の意見を把握しているか。高校への働きかけは。

回答 実施前に担当教員と事業実施当初からの協力団体である中小企業家同友会などと事前協議の場を設けて、事業実施に係る意見交換を行っている。

固定資産税

10億9846万円

佐藤委員 前年度予算から収入増としている内訳は。畜産クラスター事業による影響が大きいと見込んでいるが。

回答 お見込みのとおり、農業用施設および機械の投入により増額となっている。

北方領土隣接地域振興等補助金・同推進費補助金

7587万円

松原委員 補助事業の内容は。

回答 ホッキガイ種苗移植事業をはじめとした水産振興事業、町立別海病院医療機器整備事業などを予定している。

今西委員 新年度予算の大きな柱を伺いたい。

回答 毎年目玉をつくらなければならぬと思っていない。

西原委員 生涯学習センターなどの大型投資後、財政規律を考え取捨選択が必要。しかし、人口減少対策に取り組む必要がある。町長としての予算編成に当たった際の考え方は。

回答 私自身は、他町に劣ることなく人口減少対策に取り組んでいると自負している。議員各位は視察研修を重ねており、議会の意見を聞き、政策の参考にしたい。



議員9人による一般質問

質問 総合計画の議決と人口目標値の見直しは



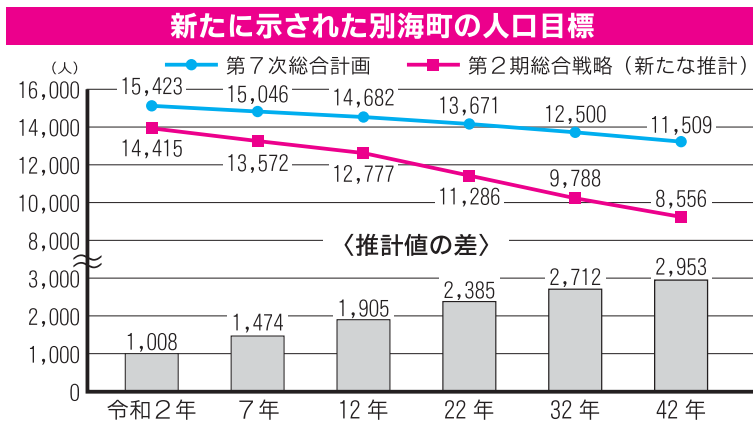
田村秀男議員

※令和元年に行った一般質問の内容を再確認しています。

質問 総合計画を議決要件としないのであれば、別海町自治基本条例第35条の逐条解説を変えるべきでは。

答弁 条例を制定した当時「基本構想」に対する地方自治法による法的な拘束力があつたため、議会の議決を経て総合計画に基づいて政策を執行する」と逐条解説で記載しているが、自治推進委員会にも説明し解説の変更をしていき

回答の要約
議決要件とする予定はない。今回、新たな将来人口の推計を行うことから、目標値の見直しを行いたい。



第7次別海町総合計画と第2期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略の将来人口比較グラフ

質問 総合計画の人口目標値の見直しの方法は。

答弁 早急に改定をする予定ですが、基本構想・基本計画の見直しまでは現時点では至らないので、数値の部分を他の計画との兼ね合わせも考えながら進めていきたい。

高齢者の雇用創出は急務

質問 高齢者の人材活用に「シルバー人材登録制度を導入し、調査を進めた結果は。

答弁 高齢者保健福祉計画および第7期介護保険事業計画の更新に向け実施を予定している高齢者に関する町民アンケート調査において、それらに関する調査を項目に加えることを検討していく。

果敢に攻める

総合戦略の策定：

質問 今年度策定の第二期別海町まち・ひと・しごと創生総合戦略の最重点施策は。

答弁 どれか一つをとって重点施策と言うような考え方を持っているものではない。

郷土愛教育で人材育成を！

質問 教育に関する事務の点検および評価報告の郷土学習推進に関わる刊行物の作成事業は、実施計画はあるものの平成29年度から一度も作成されていない。

しかしながら、内部評価では、事業を実施し、ある程度の実績を上げ、効果があったという評価をしているのはなぜ。

答弁 確かに平成29年度から一度も実績として残る刊行物は作成していないが、作成のための調査・研究は継続しているとの自己評価をしている。評価は別海町社会教育委員の会議および外部に委嘱している2名の評価委員による点検評価委員会で審査され承認を受けている。



詳細はこちらのQRコードから

議員9人による一般質問

質問 「子どもの権利条約」など 教育長の基本姿勢について



中村忠士議員

質問 教育委員会の一一般行政・町長からの独立性についての認識は。

答弁 教育委員会は首長から独立した機関であり、政治的中立性が図られている。

質問 国連「子どもの権利条約」についての認識は。

答弁 子どもの成長に関わる大切な条約。積極的に取り組んでいく。

質問 国連「教員の地位に関する勧告」についての認識は。

回答の要約

子どもの成長にかかわる大切な条約。積極的に取り組む。

答弁 先生方が安心し、充実した環境の中で教育活動にあたることができるよう教育環境の整備に取り組む。

質問 学校公務補の雇用待遇について正職員と嘱託、臨時職員との格差をどう考えるか。

答弁 格差を少しでも縮めていかなければならない。現場の声を聞きながら実態を把握していく。

オスプレイは寒さや風雪に弱いのではないか

質問 1、2月の日米共同訓練で米軍機「オスプレイ」は矢臼別演習場での訓練を取りやめた。理由は何か。

答弁 「米軍の運用上の理由」と、道防衛局から説明を受けている。

質問 その説明では中身が何もわからない。

オスプレイに関しては、沖縄から千歳に来るのが遅れ、矢臼別への飛来も情報が揺れ結局来なかった。

千歳から沖縄に帰還すると、きも2機のうち1機が遅れて



矢臼別演習場外で訓練飛行する米軍AH-1攻撃ヘリ（日米共同訓練1/27撮影）

帰還したが、途中仙台空港で緊急着陸している。

オスプレイは寒さや風雪に弱いと言われてきたが、それが裏付けられたのではないか。

答弁 今回の飛行中止をもってオスプレイが寒さや風雪に弱いことが裏付けられたとは考えていない。

だが、できるだけ情報を集めて正確な判断をしていくことが大切だと思っている。

厚生労働省の病院再編統合計画について町長の所見は

答弁 別海病院を他の病院と統合する考えは全くない。今後、関係機関と協議しながら、安定し継続可能で町民に信頼される病院となるよう取り組んでいく。





議員9人による一般質問

質問 災害用液体ミルクの配備と活用の計画について



横田保江議員

質問 令和元年6月および9月定例会における一般質問で私から提言し、導入が決定した災害用液体ミルクの新年度以降の配備計画の詳細は。

答弁 令和2年度から液体ミルクの購入を予定している。購入数は240個で、6月頃に納品され次第、各避難所へ配備する。

質問 賞味期限間際の液体ミルクの活用方法は。

日頃から使い慣らす工夫が大事ではないか。

答弁 賞味期限間際となる

回答の要約

令和2年6月から災害用液体ミルクの導入を予定し、購入数は240個、納品後、各避難所へ順次配備する。

とき、地域防災訓練などで活用できるよう協議していく。多くの機会で活用することにより、液体ミルクに慣れるきっかけとなれば、家庭内備蓄にもつながると考えている。



災害用に備蓄される乳児用液体ミルク

子どもに対する難聴の支援策について

質問 新生児に係る当町の聴覚検査の支援策および事業効果は。

また、先天性以外の発症に対する支援策はあるか。

答弁 令和元年度から新生児の聴覚検査費用を全額助成している。

事業効果は、経済的負担の軽減と聴覚障害の早期発見・早期療育を図り、言語発達などへの影響を最小限に抑えることである。

また、新生児以外の難聴児に対する支援策は、治療に要する医療費の自立支援医療制度や、補装具費支給制度、経済的負担の軽減施策がある。

質問 新生児聴覚検査費助成事業の利用について、医療機関別検査実績は。

答弁 令和元年4月から令

和2年2月まで、別海病院19件、市立釧路総合病院9件、その他医療機関70件である。

質問 家庭での早期発見を促す指導は大事だと考えるが。

答弁 町民保健センター来訪時、乳児家庭訪問時、乳幼児健診・相談時に、日常生活における、年齢に応じた耳の聴こえの確認を促している。手を叩いたり、呼びかけた

りして、周囲の物音への反応を確認するなど、耳の聴こえを注意深く見守っていただくよう保護者の指導・助言に努めている。

質問 難聴を抱える子どもたちに対する当町の療育環境は。

答弁 児童デイサービスセンターで、日常生活の基本的な動作の指導、知識・技能の付与、集団生活への適応訓練など子どもに適した個別の療育を行っている。



詳細はこちらのQRコードから

議員9人による一般質問

質問 「保幼小中一貫教育」の議論を執行方針に盛り込む考えは



今西和雄議員

質問 教育環境の充実を

目指し、小・中学校適配置計画が示されており、「21世紀に入り、新たな学校の創出を目指す」とも記されている。

小中一貫教育体制を検討すると理解するが。

答弁 文部科学省の定義では、「小中一貫教育」とは小学校から中学校への円滑な接続を目指す小中連携教育について、9年間の教育課程において系統的に教育を行うものとなっている。

当町が取り組んでいる「別海型コミュニティ・スクール」は小中一貫教育と親和性が高

回答の要約

学校適正配置計画に基づく対応に加え、まずは「小中一貫教育」の議論を深めていく。

いと考える。

今後の少子化が進む状況下で、学校適正配置基本計画に加え、小中一貫教育の議論を深めることも、将来を見据えた教育につながると考える。



幼児教育・学校教育連携事業（野付学校区コミュニティ・スクール）

質問 「コミュニティ・スクールの取組が、本格的に動き始め、全国表彰も受けるなど着実に成果が上がっている。

このことから、「別海型コミュニティ・スクール」の目標の一つとして、保育園・幼稚園を加えた「保幼小中一貫教育」の議論につなげていく考えは。

答弁 当町が取り組んでいる「別海型コミュニティ・スクール」は、学校配置の特徴から、保幼小中連携事業に取り組んでいる。

しかし、保幼小中一貫教育は全国的に事例も少なく、現実の幼児教育と義務教育の教育課程においてさまざまな課題が考えられる。

文部科学省でも研究が進んでいないため、まずは小中一貫教育が土台と考える。

保幼小中連携は、「別海型コミュニティ・スクール」の取組の中で、連携事業を中心に充実させていく。



野付学校区コミュニティ・スクールより

質問 新年度の教育行政執行方針に、保幼小中一貫教育に向けた議論の着手について盛り込む考えは。

答弁 保幼小中一貫教育については、まだまだ課題も多いことから、まずは小中一貫教育の議論を深めていく。

また、今後、「別海型コミュニティ・スクール」の熟議の中で、段階として保幼小中一貫教育が土台であることから議論を深めていく。

先んじて、「保幼小中一貫教育」の議論を。



議員9人による一般質問

質問 国・道の施策に頼るだけでなく町独自の経済政策を推進すべき



木嶋悦寛議員

質問 東京23区在住者などに移住支援金を支給する「Uターン新規就業支援事業」

地域の特性を生かした雇用や担い手確保を図る創意工夫に対して支援する厚生労働省の事業を活用して設立した「南知床4町地域雇用創造協議会」の事業効果は。

答弁 「Uターン新規就業支援事業」については、交付要件が理由からか、町内企業が道のマッチングサイトに登録されておらず、本事業による移住実績はない。

雇用創造協議会が実施する事業への当町からの参加実績

回答の要約

経済人みずからの経済活動の目標、方向性をどう持つかが一番大切。その上で支援が必要であれば手を差し伸べる。

は、事業者向けセミナーに4社、求職者向けセミナーに7名、就労体験への参加はない。

質問 事業者は、百社あれば百様である。例えば、釧路市で取り組んでいる個別の相談支援事業などが必要だ。セミナーもよいが、個々の事業者にあった支援が必要だ。中小企業支援策の推進に1段キアを上げるべきだ。

答弁 釧路市のような専門職員を置いた支援は行っていないが、当町のみでの実施は難しいので、今後、協議会において協議していきたい。

質問 地域おこし協力隊事業を活用し、専門的知識のある人材を確保し、産業連携を推進するのは有効な方策と考えるが。

答弁 経済分析や経済政策を推進する上での専門的な知見は必要であるが、経済分野での協力隊事業の活用は考えていない。

質問 平成29年に町が作成した「産業連関表」をもとに町の職員だけで経済政策を分析できるのか。分析は進んで

いない。どのように考えるか。

答弁 「産業連関表」については、今後の当町の産業活動に生かせるよう私からもしっかりと担当部署に指示をしたい。

地域おこし協力隊事業については、もし、専門的知見を持つている方がいたら、人材の活用も考えていきたい。

質問 どの中小企業者も、経営安定に向けて一生懸命取り組んでいる。資金面の支援や、事業構築の中間支援をだれが実行するかが、今一番重要だ。やることは明確だが。

答弁 当町は、周辺の自治体よりも中小企業者への支援策を打っていると感じている。経済人みずからの経済活動の目的、方向性をどう持つかが一番大切で、考えていることの実行段階で行政の支援が必要であれば、できる限り手を差し伸べて支援をしたい。



釧路市ビジネスサポートセンターの相談風景 (写真提供)



詳細はこちらのQRコードから

議員9人による一般質問



閉校、閉園して10年以上経過しても国道や町道に設置されている案内板

質問 町内には多くの看板や標識があるが、事実と異なっているものも、長年そのまま残っているものがある。
特に閉校した学校関係が多く実態に合っていない看板は、関係機関への働きかけや撤去が必要と考えるが。



外山浩司議員

質問 閉校などにより事実と異なった道路の標識・看板の訂正や撤去を

回答の要約

関係機関に訂正や撤去を要請し、町道は順次更新していく。

答弁 国や道が設置した道路標識については、訂正および撤去などの対応に向け要請していく。

町道に設置されているものについても予算の範囲内で順次更新を行っていく。

質問 当町の景観づくりへ向けての考えは。

答弁 「第7次別海町総合計画」の中で大綱に「まちづくり景観と市街地活性化」を掲げており、各地域の意見を伺いながら、特色を持った景観を形成していくことが望ましいと考える。

北方領土学習の指導内容は

質問 今年の「北方領土の日」根室管内住民大会では、昨年使わなかった「島を返せ」と書かれたタスキをつけ、「北方領土を返せ」と元島民たちが声を上げた。

その後の1市4町代表の10名の中学生の弁論を聞いていると「ロシアの人を島から追い出すのは、かわいそう。日本人と共同生活をする事ができないか」という主張が多くなってきた。

学習指導要領での領土問題の指導内容はどのようになっているか。

答弁 「北方領土が我が国の固有の領土であること」「現在ロシアによって不法に占拠されていること」に加え、新学習指導要領では、「我が国の立場が歴史的にはもちろんのこと、国際法上も正当であること」などが指導内容となっている。

いる。

質問 弁論の指導にあたる教諭との理解の違いなどから、生徒間に主張の差が生じていると思われる。

領土問題について職員への指導はどのように行われているか。

答弁 教職員を対象に指導は行っていないが、生徒間、学校間で理解の差が生じないように、校長会議、教頭会議などを通して各校へ確認していく。

さらに、来年度、作成を進める当町独自の社会科副読本についても領土問題を取り上げるなど、当町の将来を担う子どもたちが、北方領土について正しい知識と理解を深めることができるよう取り組んでいく。





議員9人による一般質問

質問

当町の海岸侵食対策について



宮越正人議員

質問 毎年、多発する低気

圧被害により、当町の海岸侵食が進んでいるが、地域の住民から漁業活動や住宅などの浸水被害など、それを危惧する声が多数寄せられている。

町も、窮状を訴える住民の声には迅速に対応して、所管をする北海道とともに、現場

回答の要約

海岸侵食に対する要請は毎年続けている。今後も、国や道に声を大にして要請をすることが、一番大事だと考えている。

を確認して出来る限りの対応をしていることは承知をしている。

しかし、遅々として進まない対策状況に住民不安は増幅されているが、北海道の対策はどうか。

答弁

前浜などの海岸侵食の現状については、漁業活動や国土保全の観点からも、大変重要であると認識している。所管する北海道は、町の要請などにより、野付海岸の対策計画などを進めている。

しかし、事業の進捗に遅れがあるのは事実であり、今後とも声を大にして要請活動を続

ける。

野付半島の侵食対策は、突堤が51基の計画で39基、消波堤が4010基の計画で1745基が完了している。

また、漁港海岸の浸水対策として、施設背後の1300mの区間について保全整備を進めている。これらは、機会を設けて住民周知する。

また、町では、想定される「千島海溝巨大地震」の対策も国や北海道と調整する。

別海高校の志願状況と生徒の確保対策は…

質問

別海高校への各支援策は、町の将来のためにも中・長期的な視野に立つべきだが、今年度の町内・町外別の志願者数はどうか。

また、支援策の効果と評価はどう捉えているか。

答弁

今年度の志願者数は、普通科が106名で、酪農科が14名である。昨年状況と

比較すると、普通科で9名増、酪農科で4名増となっている。

町内中学生の約40%が、「より高いレベルの学習や部活動に挑戦したい」「校風が魅力」「得意な学科を生かしたい」などの理由により、町外高校へ志願している。

支援策の効果と評価については、バス通学費の全額助成、進学対策支援eラーニング受講補助、部活動遠征費補助、部活動外部指導者派遣事業に加え、寄宿施設の利用補助などを追加実施してきたことで、普通科3学級の定員を確保できている。

部活動の支援効果は顕著であり、野球部が19年ぶりに全道大会へ進出した。

また、寄宿施設支援では、4月から19名の入居希望者の内、9名が町外からの志願者である。

今後においても、支援策のアイデアを町民から募るなど、高校の存続・発展に向けて努力する。

災害対策は、国や北海道に対する強い政治力が必要だと再認識しました。



詳細はこちらのQRコードから

議員9人による一般質問

質問

病児・病後児保育実施

への方向性は



瀧川榮子議員

回答の要約

看護師、保育士など支援に必要な人員を確保し、医療機関との連携で令和4年度事業開始を目指す。

質問 令和2年度から「第2期別海町子ども・子育て支援事業計画」が始まる。保護者の病児・病後児保育のニーズは。

答弁 アンケート結果から、利用希望が一定数あり、就学前保護者のニーズが高いことを確認した。

質問 調査結果を踏まえた協議と計画に反映した内容は。

答弁 調査の際、病児保育には一般的に料金がかかること、事前に医師の診断が必要なことなどを付記し調査を行った。



「利用したい」との声は、病児保育を必要とする保護者の真の意向と受け止め、計画を策定する子ども・子育て会議において重点的に審議を進めた。病児保育の実施にあたり、医療機関などとの連携体制が

不可欠なことから、体制整備に伴う課題などについて、別海病院の小児科医師を交え協議を行っている。

第2期計画では、感染に配慮した病児の受け入れ施設や看護師、保育士など支援に必要な人員確保などについて、医療機関などと連携し、令和4年度の事業開始を目指す。

質問 調査結果からは、利用料金が生活を圧迫するという住民の声が表れている。所得に合わせた利用料金を検討する考えはあるか。

答弁 課税・非課税という区分で料金設定している施設も参考にしていきたい。

質問 利用者の対象年齢を引き上げる必要は。

答弁 ニーズ調査から就学児の一定の利用が見込まれる。第2期計画では対象年齢の設定は行っていない。

院内感染防止対策は

質問 新型コロナウイルス感染が拡大することなく終息することが望まれるが、町立別海病院の対策・対応の考え方は。

答弁 院内感染防止対策委員会を中心に、状況に応じて対応している。

質問 新型インフルエンザ対策政府行動計画では、対策実施上の留意点に「基本的人權の尊重」が明記されている。共通認識を町民が広く持てる方策は。

答弁 病気に対するいじめがあってはならない。医療従事者に対しては、病気の蔓延を防ぐために努力してくれた人々という認識を町民に持ってもらうことが大切。患者が当町から出た場合の対策は考えており、それに基づいて取り組んでいきたい。

病児・病後児保育の開始年度が示されました。



議員9人による一般質問

質問 高校の通学バス助成は一時負担のない制度に改正を



松壽孝雄議員

質問 高校生の保護者に対する通学バスの助成制度について、定期券の購入費用を保護者が一時負担せずに支援する現物給付制度を実現するために、必要な処置を検討する考えはあるか。

答弁 利用者の負担軽減を図ることを目的に、今回、住民税非課税世帯に対する助成金の概算払いを行うこととした。今後も保護者の意向や申請の窓口である別海高校の意見を聞き、継続して見直しを進めていく。

やはり「一時的に高額な通学費を負担しなければなら

回答の要約
今後も保護者の意向や申請窓口である別海高校の意見を聞き、継続して見直しを進める。

「い」という意見があったことは、しっかり受け止めている。すぐに教育委員会ならびに財政部に検討をさせたが、今回の改正となった。どうしても現物給付でなければならぬというのであれば、さらに議論しなければならぬ課題であると思う。

質問 制度を所管する教育委員会学務課の時間外勤務は、町職員平均の2倍以上となっている。

多忙な所管の勤務実態も認識しているが、高校の間口確保の観点からも制度の拡充について早急に対応すべきと考

えるが。

答弁 教育委員会職員は、多忙な状況にあるものの、取り組むべき事務事業として、計画的に事務を遂行していると考えている。

今回の制度改正が最終的なものではなく、引き続き保護者負担の軽減につながる補助の仕組みについて検討を進める。

質問 所管の勤務実態を心配しつつも、我々、町民の負託を受ける議会人としては、このような制度の改善に対して何年も待つことはできない。職員が気持ちに余裕をもって仕事に取り組み、議会対応に係る時間を十分確保できる体制を求める。

そして、議会と論議しながら、より町民に喜ばれる住民サービスが立案され、それが職員としてのやりがいにつながるよう、教育委員会職員の働き方改革や機構の見直しを

早急に行うべきと考える。

答弁 ここ数年、教員の働き方改革や新学習指導要領の対応、コミュニティ・スクールの本格導入など、学務課の事務量が増加している。

当町の教育行政を安定的に推進し、より能率的に業務を遂行できる組織とするため、機構改革を検討している。

【令和2年4月から新設の学校教育課との2課体制実現】



全額通学費補助の支援を受け通学する別海高校生（中春別にて）

委員会総意のもと町民の声を町側にいただきました。今後も案件があれば委員会で対応したい。

質問を終えて

定例会まとめ

令和2年第1回定例会会議結果報告 アイヌ民族との共生社会に向け決議

【第1回定例会の概要】

令和2年第1回定例会は、3月5日に招集され、会期を3月13日までの9日間と決定。

1日目 3月5日

初日は、町長からの行政報告、副町長からの提出案件の概要説明のあと、年度内に執行する補正予算などの説明・質疑、討論・採決を行い、全会一致で可決しました。

町長からの行政報告

- コロナウイルスについて
- 産業の動向について
- 除雪の対応について
- 新濱立也選手の世界的活躍について

議案などの内容説明

- 令和元年度補正予算8件
- 工事請負契約の締結2件

議案に関する主な質疑

- ふるさと納税の見込み減と対応について（佐藤議員）

- 畜産クラスター事業の実績について（佐藤・中村議員）

- プレミアム付き商品券の給付率について

- 学校の通信ネットワーク推進事業の詳細について

- 旧光進小中学校の利活用の方向性について

- U-Jターン新規就業支援事業の全額減額補正の理由について（以上中村議員）

2日目 3月6日

令和2年度当初予算案の内容説明の後、審査を特別委員会に付託。その後、他の議案の説明と質疑が行われました。

当初予算案以外の内容説明

- 条例の制定1件
使用料および手数料の改正に伴う関係条例の整理条例

- 条例の一部改正16件

- 条例の廃止3件

- 辺地に係る公共的施設の総

- 合整備計画の変更1件

- 町道の路線認定と廃止1件

- 根室町村等公平委員会委員の選任1件

議案に関する主な質疑

- ケアハウスおよび高齢者生活ハウスの料金改正の根拠について（中村議員）

- 道路構造の技術的基準の対

- 象道路について（木嶋議員）

5日目 3月9日

- 議員6人が一般質問。（8から13頁参照）

6日目 3月10日

- 前日に引き続き、議員3人が一般質問。（14から16頁参照）

- その後は、3月12日まで本

- 会議を休会し、各常任委員会および予算審査特別委員会を開催しました。（6から7頁参照）

9日目 3月13日

- 最終日は、特別委員会に付託した令和2年度各会計当初

予算ほか町長提出案件の討論・採決を行いました。

「別海町ケアハウス条例の一部改正」について、反対討論、賛成討論があり、賛成多数で可決されました。

その他のすべての案件は、全会一致で可決がされました。

アイヌとの共生に向け決議

戸田議員から「民族共生の未来を切り開く」決議が提出され、即日に全会一致で可決されました。

別海町ケアハウス条例の一部改正の討論

（賛成13人 反対2人）

反対 中村忠士議員

料金改正の根拠をただしたところ、理由が不明であったため本案に反対する。

賛成 木嶋悦寛議員

物価などの事情を総合的に勘案した国基準の改正があり、施設の管理経費を勘案しても、一定の負担は妥当であり賛成。

新人議員1年をふり返って

爆弾低気圧や新型コロナウイルス対応の中で開会された3月定例会も無事終わり、令和元年5月1日に議員に就任してから1年になりました。

初議会では、新人3人それぞれ別の常任委員会と広報・広聴常任委員会に配属になり、

委員会での「所管事務の調査や議案審査」、予算や決算審査特別委員会での「質疑の構築」、広報・広聴常任委員会での「議



1年間真剣に議論を戦わせた議場で記念撮影

会だよりの発行や広聴活動の協議、本会議での質疑・討論・採決などを行いました。

また、定例会ごとの一般質問では、町政の課題を見つけ3人それぞれが精一杯努力して、町長・教育長の見解を問いました。

議会活性化計画に基づく議員間討議では、全員協議会協議会、常任委員会協議会などを通じ、いろいろな問題点・改善点について意見を述べる機会がありました。

議員研修では、新任議員研修、議会サポーターによる一般質問研修などたくさん研修機会がありました。

これから2年目の議員活動になりますが、住民の代表者としての自覚を忘れることなく職務を全うしたいと思えます。

(文責 田村・横田・宮越議員)

シリーズ 町民に聞きました

記者から見た別海町議会

インタビューを受ける人 釧路新聞中標津支社 五味亜希子さん



広報委員 別海町議会は、記者という立場からはどう見えますか？

五味さん 議会は市町村ごとにそれぞれの特徴があるように感じます。別海町は、特に昨年の改選後から議会改革が進んでいるように見えます。

広報委員 特に気になる取組はありますか？

五味さん 一般質問の研修会を取材させてもらいましたが、その成果もあってか議論の質が非常に高くなっていると思います。また、地域めぐり懇談会での町民との距離の近い話し合いは非常に好感を持っています。

広報委員 一般質問の更なる質の向上を目指すにはどうしたらよいと思いますか？

五味さん 再質問を繰り返し、どのような答弁を引き出したいのかゴールが明確になると聞いてて分かりやすくなると感じます。

広報委員 別海町議会の雰囲気はどう感じていますか？

五味さん 議員各々で考え方の違いはあるのですが、議会の方針やテーマなど、全体でコミュニケーションを取りながら和やかな雰囲気の中で進んでいる議会だと思っています。

広報委員 ありがとうございます。考え方やスピード感など議員各々違いはありますが、議会として同じ方向を見て前に進んでいきたいと思っています。

(インタビュー&撮影 瀧川・小椋委員)

議会のうごき 12月定例会終了後から3月定例会まで

1 議長、副議長、各議員の動向について

期 日	内 容	備 考
12月12日	商工業活性化懇談会 (町内)	議長
12月23日	根室町村議会議長会臨時総会 (標津町)	正副議長
1月5日	別海消防団出初式 別海町新年交礼会 (町内)	議長
1月7日	別海町成人式 (町内)	議長
1月9日	べつかい子ども未来議会 (町内)	議長
1月21日	町長・議会議長と商工会正副会長が新年を迎え語り合う会 (中標津町)	議長
1月22日	別海高校農業特別専攻科海外研修及び酪農経営科海外視察研修報告会 (町内)	議長
1月23日	北海道中小企業家同友会釧路支部別海地区会新年交礼会 (町内)	副議長
1月28日～2月1日	全国市議会議長会基地協議会理事会・総会 (東京都)	議長
2月7日	2020「北方領土の日」根室管内住民大会 (根室市)	松原議員
2月5日～8日	人口減少対策に係る政策立案研修 (枚方市、八尾市、甲賀市、京都市)	議長ほか5名
2月12日	道と花咲線対策沿線地域連絡協議会の意見交換会 (根室市)	議長
2月17日	水環境と畜産環境を考える研修会 参議院沖縄及び北方問題に関する特別委員会視察時行政関係者等との要望・懇談会 (町内) (根室市)	議長
2月20日	根室市議会行政視察受入れ (町内)	議長
2月28日	一般質問研修会 (別海町議会議事堂)	正副議長ほか議員 8名

※出席議員の欄には、公務として出席している議員を記載しており、公務外で地域行事などに参加している議員については記載していません。

2 一部事務組合・広域連合議会について

期 日	内 容	備 考
2月26日	根室北部廃棄物処理広域連合議会定例会 (中標津町)	正副議長・関係議員
2月28日	根室北部消防事務組合議会定例会 (中標津町)	
	中標津町外2町葬斎組合議会定例会 (中標津町)	

3 本会議および委員会など各種会議の開催結果について

期 日	内 容	期 日	内 容
12月17日	第18回広報・広聴常任委員会	2月21日	第1回全員協議会
1月10日	第1回広報・広聴常任委員会		第1回全員協議会協議会
1月15日	第1回総務文教常任委員会	2月27日	第3回議会運営委員会
	第1回総務文教常任委員会協議会	3月2日	第4回議会運営委員会
1月21日	第1回議会運営委員会	3月3日	第2回全員協議会
	第1回福祉医療常任委員会協議会		第2回全員協議会協議会
1月22日	第1回産業建設常任委員会	3月5日～13日	第1回定例会
	第1回産業建設常任委員会協議会		第3回総務文教常任委員会協議会
2月13日	第2回総務文教常任委員会	3月10日	第2回福祉医療常任委員会
	第2回総務文教常任委員会協議会		第3回福祉医療常任委員会協議会
	第2回産業建設常任委員会		第3回産業建設常任委員会
	第2回産業建設常任委員会協議会		第3回産業建設常任委員会協議会
2月14日	第1回福祉医療常任委員会	3月11日・12日	令和2年度各会計予算審査特別委員会
	第2回福祉医療常任委員会協議会		第5回議会運営委員会
2月19日	第2回議会運営委員会	3月13日	第2回広報・広聴常任委員会

※会議の開催結果は、ホームページで確認することができます。

緊急提言書を町に提出しました

別海町議会は、本格化する新型コロナウイルス感染症対策に係る対策予算の審議、調査を前に議員間討議を行い、次のとおり緊急提言書を町長に提出しました。

今後、審議・調査を重ね、必要に応じては緊急提言を継続するなど、町民の生命と生活を守るため施策の実行を求めています。提言の一部をお知らせします。

1 緊急経済対策について

飲食業と宿泊業事業者を対象に、経営意欲の継続及び当面の運転資金確保を目的とした現金給付と固定経費の支援を行い、今後の継続支援に向けた応援ファンドを早期に開設すること。また、従業員の確保等に係る支援に向けて実態調査すること。上記2業種以外の業種における経済損失についても早急に実態調査すること。

2 情報発信体制の早急な完全について

町のホームページの改善、防災無線のさらなる活用、若者への紙媒体の配布、FM放送の準備など、情報発信体制を強化すること。正しい情報が町民に行きわたるよう工夫すること。町内外の移動や来訪者との接触を最小化するため、声明を発信し、住民の安心に努めること。

3 相談窓口の開設について

相談窓口機能を有する部署を設置し、町民に周知すること。

議会の傍聴の際はマスクを持参ください!

議会の会議は、誰でも傍聴することができますが、新型コロナウイルス感染症対策のため、発熱がなくマスクを持参される方に限っていますのでご了承ください。

令和2年6月定例会の予定

6月22日(月) 10時～
本会議1日目 議案上程・提案理由説明・施政方針
行政執行方針

6月23日(火) 10時～
本会議2日目 一般質問

6月24日(水) 10時～
本会議3日目 一般質問ほか

6月25日(木) 委員会開催につき
本会議4日目 本会議は休会

6月26日(金) 10時～
本会議5日目 議案の討論・採決ほか

6月						
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

※議事の内容は、変更することがありますので、議会ホームページをご確認されるか、議会事務局までお問い合わせください。

編集後記



小椋 哲也 委員長

仕事はテレワークでテレビ会議が増えましたが、幼稚園も休みで子どもとは一緒に過ごす時間が増えました。大変な状況ですが前向きに考えていきたいですね。



瀧川 榮子 副委員長

マスクは品切れ、手作り開始です。



戸田 憲悦 委員

新型コロナウイルス対策予算の審議に備え、万全の体制で議会に臨みます。



外山 浩司 委員

雨二モ負ケズ 風二モ負ケズ コロナ二モ負ケナイヨウニ



田村 秀男 委員

1日も早い新型コロナウイルスの終息を願っています。



横田 保江 委員

出掛けたいけど、じっと我慢のお婆あ～です。



宮越 正人 委員

皆さん、是非とも議会の傍聴を、マスク持参でお願いします。

「密閉空間」「密集場所」「密接場面」3つの密を避けましょう!